

# Macedonia **Eco-DRR** Newsletter

Capacity Building For ECO-DRR Through Sustainable Forest Management In MACEDONIA  
Nov 2017 - Oct 2022

## 持続的な森林管理を通じた、生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）能力向上プロジェクト

本プロジェクトの目的は森林生態系の多様な機能を利用し、洪水、地すべり、土壌侵食、森林火災に対する生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）のモデルが開発されることです。

世界的な自然災害リスクの増大に伴い、Eco-DRRに対する期待は近年高まっています。

### 第一回本邦研修実施



嵐山国有林における治山現場視察

2018年7月、CMC(危機管理センター)およびPEMF(森林公社)から総勢5名を研修員として日本に招き、マケドニアにおけるEco-DRR普及促進に役立つ先端知識を身につけるための本邦研修を実施しました。

研修では、林野庁(日光森林管理署/京都大阪森林管理事務所)をはじめ、森林総合研究所、明治神宮より森林管理制度や市民参加による植林の歴史、治山技術に関する講義を受けるとともに、先進事例として(嵐山国有林の治山、六甲砂防事務所が管理する渦ヶ森グリーンベルトなど)現場を視察し、施工方法や管理体制を学びました。

また、東京消防庁池袋施設にて地震体験をした後、市町村(平塚市)を訪問し、ハザードマップを活用した住民への防災・減災知識の普及方法を学びました。さらに、京都大学防災研究所、UNISDR(国連国際防災戦略事務局)、アジア防災センターからは日本における自然災害の現状や対応状況について説明いただきました。

研修員からは、「日本の災害対策方法やプロジェクト実施に有益な情報を得ることができた」「現場視察や講師との議論を通じてEco-DRRに関する理解が深まった」と高評価をいただきました。



真夏の暑い中での研修受け入れにご協力いただきました各機関関係者の皆様には心より御礼申し上げます。

### 第2回JCC開催

第2回JCC (Joint Coordinating Committee) が11月27日に開催され、本プロジェクトのダイレクターであるCMC長官やマネージャーのCMC部長をはじめ、PEMFの副社長、スコピエ市、ヨーロッパ事務局、在マケドニア日本大使館書記官、JICA/バルカン事務所長、そしてプロジェクト専門家を含む総勢16名が参加しました。

プロジェクトダイレクターの開会の辞で始まり、プロジェクト専門家からは第1期業務の進捗及び第2期の業務計画を報告しました。

これまでの業務を振り返り、出席者からは関係者への謝意が述べられ、今後の活動に期待を掛ける言葉が寄せられました。



JCC会議の様子

## 森林総研の玉井幸治氏を現地へ派遣



玉井氏による現場視察および指導

10月27日-11月5日にかけて森林総合研究所の玉井幸治氏をマケドニアへ派遣し、現地視察および指導をいただきました。

パイロットサイトの1つであるラドビシュにおいては、森林モニタリング流域の試験手法についてC/PおよびJICA関係者と協議した後、現場を視察していただき、検討していた斜面観測によるモニタリング手法の妥当性について確認していただきました。



CMC本部でのプレゼンテーションの様子

また、ラドビシュとCMC本部の2回に渡ってプレゼンテーションの場を設け、日本における治山の歴史や森林の防災効果に関するデータについて講義をしていただきました。これによりC/Pを始め市役所等関係諸機関に日本の災害対策状況に関する知識を深めていただく事ができました。

## ラドビシュ市の10年記念式典に参加しました

2008年12月にラドビシュ市にて発生した大雨災害から10年経った今年、洪水防止啓発の為の式典がラドビシュ市長主導の下11月26日に開催されました。

この式典は、CMC長官、PEMF社長、JICAバルカン事務所長、プロジェクト専門家等が列席して執り行われ、100名に渡るラドビシュ市の住民も参加されました。

式典では、まず始めにラドビシュ市長から10年前の災害状況の振り返りと将来への備えの重要性が述べられ、その後プロジェクト専門家からEco-DRRの効果と現地での植林計画などを説明しました。式典終了後の歓談では、市長より防災・減災のために本プロジェクトへ期待が寄せられ、市における持続的な防災への取り組みの必要性についても理解を示されました。



ラドビシュ市10年記念式典の様子

## 今半期 成果毎の主な活動

### 共通の活動

- ◆本邦研修の実施支援
- ◆第2回JCC、TCG (Technical Coordinating Group) の開催

### 成果1: MKFFISの機能強化および活用

- ◆MKFFIS、GFISの更新開発
- ◆水理モデル開発：ラドビシュ市の洪水被害想定域分析
- ◆ドローンによる撮影・土地形状分析。研修実施

### 成果2: 森林管理計画強化

- ◆森林の新規機能別区分や森林法・森林規則へのEco-DRR導入方法を検討
- ◆第3サイト候補(Chaska市)のJCCにおけるサイト決定

### 成果3: 治山+植林技術能力向上

- ◆ラドビシュ及びポドノ山での治山・植林詳細計画を作成
- ◆スベティニコレ苗畑改修計画作成
- ◆森林モニタリング施設の設置

### 成果4: Eco-DRR啓発普及

- ◆リーフレットマケドニア語版作成・配布
- ◆プロジェクトFacebookページを作成

**Macedonia Eco-DRR Facebookページはこちら!**

<https://www.facebook.com/MacedoniaEco-DRR/>

## 次期半期のイベント

- 第3回TCG 開催
- ワークショップ(森林管理、治山・育苗技術)実施
- 新MKFFIS操作マニュアルの作成
- 危険個所のマッピング
- 森林管理計画・森林回復計画ガイドライン及び研修マニュアルの策定
- ラドビシュにおける治山技術の現場展開

## コンタクト



危機管理センター  
Crisis Management  
Center (CMC)  
HP: [www.cuk.gov.mk/mk](http://www.cuk.gov.mk/mk)

### プロジェクトオフィス

Dimce Mircev No.9, Skopje, Macedonia  
Tel: +389-2-3249-115/145/146  
E-mail: [EcoDRR.MK@gmail.com](mailto:EcoDRR.MK@gmail.com)  
HP: <https://www.jica.go.jp/project/macedonia/001/index.html>



マケドニア森林公社  
Public Enterprise  
Macedonian Forests (PEMF)  
HP: [www.mkdsumi.com.mk](http://www.mkdsumi.com.mk)



独立行政法人  
国際協力機構